

ブックちゃんの

2024年2月1日発行

ふじのみや探検



第42号 富士宮の定期市のひみつ

発行：富士宮市立中央図書館 〒418-0067 静岡県富士宮市宮町13-1 TEL:0544-26-5062 FAX:0544-26-1284

富士宮市の商店街には、三つの定期市があります。「十六市」「神田楽市」「にしの市」です。毎月、決まった日に（定期的に）富士宮の商店街の歩道上にお店が出され、買い物客でにぎわっています。定期市のひみつを探ってみましょう。

※「市」とは、地域の特産物やお店の商品を店先に並べ販売すること 現代風に言えばマルシェのこと

ひみつ1 歴史上の「定期市」

今川氏真（桶狭間の戦いで、織田信長に討たれた今川義元の子）の命令で、富士大宮（富士宮）では「神田市」を開き、毎月6回「市」を開いていました。（六斎市、または、大宮の六度市）大宮小学校近くで、神田通りを少し北に入った所に、「市神さん」とよばれる神田市神社があります。このあたりで、商売をする人たちがお祭りを行い、多くのお客でにぎわいました。これが、現在のひみつ3「神田楽市」につながっています。「楽市」とは何でしょうか？社会科の教科書などには「織田信長が、楽市楽座を始めた」と載っています。城下町などで「市」を開いたら、税をとられていましたが、信長は、この税をとらないようにして、商売を活発にしました。これが「楽市」（1567年）です。富士大宮では、この「楽市」を信長が始める以前の1566年に行っていました。あわせて、神田橋あたりには関所があり、そこを通るときは、税をおさめなければならなかったのですが、それもなくなりました。このようにして、人の行き来が活発になり、「神田市」はさらににぎやかになりました。



「神田市神社」



毎月16日に駅前通り商店街（富士宮駅北口から北へ向かう道路の両側にある商店街）で行われている「市」です。2000年6月に始められました。10名の商店街のおかみさんが、活気をなくしていた商店街ににぎやかさや元気さを取り戻そうと、勉強会をひらきました。その後、「駅前きてみてちょカーニバル」を開き、来たひとたちに好評だったのがきっかけで、はじめられた「市」です。その日が、16日だったので、「十六市」となりました。この日は、焼き立てパンや旬の野菜、とうふのハンバーガー、栗倉のふき、竹の炭など珍しいものも販売され、たくさんの人でにぎわいました。「大型店にはできないサービスを提供することや地元ならではの商品を提供すること」を考えて、今も続けられています。また、「十六市」を運営している商店街と松崎町（富士宮市と「ヒメの里交流都市」で結ばれています。）とは十年來の交流があり、松崎町のお菓子を販売したり、松崎町から贈られたポンカン^{しやかいふくしきょう}を富士宮市社会福祉協^{ぎかい}議会に手渡したりしたこともあります。



「きてみてちょ」
商店街探訪マップ第1号

10月に参加した大宮小学校の6年生児童は、お店のお手伝いや地域の方との交流をはかりながら、SDGs目標「住み続けられるまちづくり」として、バザー販売やSDGsがどのくらい知られているかのアンケート活動がんばりました。

※SDGsとは、よりよい世界に住み続けるために、世界中の人が取り組む目標のこと

例えば、海の豊かさを守ることを目標にしたら、プラスチックごみが海に流れ出て、たまってしまふのを防ぐために、海岸のそうじをしたり、マイ箸^{ばし}を用意したりすることなどが考えられます。富士宮市では、2024年4月から、プラスチックごみの分別収集^{ぶんべつしゅうしゅう}が始められます。

ひみつ3

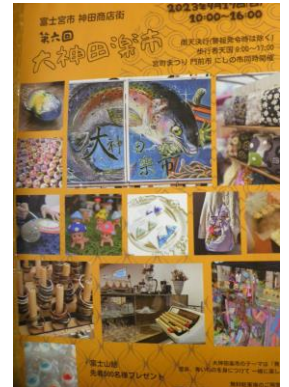
「神田楽市」「大神田楽市」ってどんな「定期市」？

「神田楽市」は、毎月第一土曜日、富士山本宮浅間大社近くの神田商店街にある富士宮信用金庫・神田支店前で行われています。スーパーオカミカンダ(神田商店街のおかみさんたちの集まり)によって、1999年2月に始められました。神田商店街は、「近代的な門前町風の街づくり」をめざして今までの建物が改築され、現在の新しい商店街がつけられました。

「神田楽市」では、商店街のお店自慢の天むす、赤飯、ちらし寿司、フライ、惣菜、パン、大福餅などが並べられ、販売されています。お祭り、イベント的な「市」ではなく、商品をアピールするような「市」です。

「神田楽市」より多くのお客を呼んで、神田商店街をさらに元気にしようとして始められたのが、「大神田楽市」です。2023年9月17日には6回目の「大神

田楽市」が開かれました。歩行者天国にした神田通りに、100のお店(神田商店街以外のお店も出店)が出て、アクセサリーや木工品、子供服、雑貨などの商品が並べられ、それらを求めて買い物したり、見物したりする多くのお客でにぎわいました。占いやマッサージ、ワークショップなども楽しめます。4回目からは、市内の高校生も準備や販売などのお手伝いをするなど「定期市」の広がりを見せ、浅間大社の門前市として栄えたにぎわいを感じることができます。



「大神田楽市」のようす

まめ知識

「ふじのみや・まちなかアートギャラリー」

「富士山のふもと富士宮は芸術の都である」をテーマに、「6つの商店街の各商店が美術館になる、商店街が芸術空間になる」ということをうたい文句にして開かれているのが「ふじのみや・まちなかアートギャラリー」です。2023年で20回目となりました。富士山開山祭の時期に合わせて行われています。各商店では、総勢50名以上の芸術家などの作品が展示され、お客さんが自由に鑑賞できるようにしています。また、富士宮市に住む小学生が「世界の宝物 ～私たちの富士山～」をテーマに、自由にえがく小学生絵画コンクールももよおされました。



ひみつ4

「にしの市」ってどんな「定期市」？



「にしの市」のようす



「ふじのみや西町ブックストリート」のようす

西町商店街（西富士宮駅から東に向かう道路の両側にある商店街）で、毎月8日に行われている「市」です。西町の西の市だから「にしの市」？また、なぜ8日なの？答えは、「西町」とニシ（2×4）がハチ（8）の語呂合わせです。

2001年、商店街の青年たちと「地元おかみさんの会」が地元をもっと元気にしようと始めました。商店街は、レトロ（古き良きものをなつかしむこと）な雰囲気がある街並みで、「市」では、商店街のみなさんの家庭的な手作りの総菜（おかず）やお弁当、地元の新鮮な野菜が並びます。さまざまなイベントが考えられてきた中、2023年4月「ふじのみや西町ブックストリート（一箱古本市）」と名づけて希望者20人による古本市が行われ、段ボール1箱ほどの古本を販売するようになりました。これがお客さんに好評で、宮町まつりの時にも行われるようになりました。

『第42号・富士宮の定期市のひみつ』は、次の資料を参考にして作りました。

- 1 『中学校社会科地域学習資料富士宮（令和3年度版）』 富士宮市教育委員会
- 2 『神田区誌 かんだ今と昔』 2000.1.1
- 3 『週刊文春』 文藝春秋 2012.11.25
- 4 『静岡新聞 -窓辺-』 2022.9.8・9.15
- 5 『岳南朝日』 2022.12.20 2023.1.18・4.19・6.10・6.18・6.20・10.19
- 6 『アスミル vol.12 2015年8・9月号』 高年社 60 2015.7.20
- 7 『創宮 vol.37』 富士宮市 2023.3
- 8 『富士宮商店街連盟ホームページ』 2023